

平成25年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年2月8日

上場会社名 株式会社エーワン精密 上場取引所 大  
 コード番号 6156 URL <http://www.a-one-seimitsu.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也  
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也 (TEL) 042-363-1039  
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年6月期第2四半期の業績(平成24年7月1日～平成24年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年6月期第2四半期	893	△2.7	198	△15.8	212	△16.9	129	△9.2
24年6月期第2四半期	918	3.6	236	△1.6	256	1.2	142	△4.0
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
25年6月期第2四半期	86.21		—					
24年6月期第2四半期	94.98		—					

(注) 当社は平成24年7月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で、株式分割を行っておりますが、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年6月期第2四半期	7,568	92.3	6,981	92.3		
24年6月期	7,360	93.4	6,878	93.4		

(参考) 自己資本 25年6月期第2四半期 6,981百万円 24年6月期 6,878百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年6月期	—	0.00	—	7,000.00	7,000.00
25年6月期	—	0.00	—	—	—
25年6月期(予想)	—	—	—	65.00	65.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は平成24年7月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で、株式分割を行っております。そのため上記の平成25年6月期(予想)の配当金額は、当該株式分割後のものを記載しております。

3. 平成25年6月期の業績予想(平成24年7月1日～平成25年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,900	1.3	497	2.7	518	0.9	318	11.7	212.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

会計方針の変更に関する注記

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

25年6月期2Q	1,500,000株	24年6月期	15,000株
25年6月期2Q	78株	24年6月期	—株
25年6月期2Q	1,499,961株	24年6月期2Q	15,000株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

発行済株式数に関する注記

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

●この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示辞典において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

●本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる上位研及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期財務諸表 .....	5
(1) 四半期貸借対照表 .....	5
(2) 四半期損益計算書 .....	7
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報等 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、強力な消費の柱が不在の中で消費者の嗜好も分散し、エコ関連の政策支援も減少し、個人消費は力強さを欠いた状態となりました。また、国内企業の業績も下半期に入り頭打ちの傾向を示し、設備投資も緊急性の高いものや余裕のある分野に限られるなど消極的なものとなりました。日本国内においてはここ数年、多品種小ロット、高付加価値品、短納期、低価格が定着してきており、製造業全般で平準化すると比較的なだらかな底堅い動きをしています。

海外に目を転じるとEU債務問題は解決まで時間を要する根の深い問題であり、米国も本格的な景気回復には程遠く、景気指標も強弱入り混じったものとなっております。新興国では安価な労働力を大量に活用することで自国を含めた全世界への重要な生産供給拠点となり輸出比率が高まりつつある中で、欧米等の先進諸国での需要減退による経済成長率の鈍化が見られました。ただ新興国は依然として不足する社会インフラ、耐久消費財の需要の大きさ等により一定の経済成長の確保をしております。

このような状況のなかコレットチャック部門では、中国での日本製品の売上減少やその他の国々でも景気鈍化の傾向にあったことにより海外向け量産加工用の受注が低下し、国内向けは難易度の高い小ロット加工を主体に比較的堅調に推移しました。この結果、当セグメントの第2四半期累計期間の売上高は612,779千円(前年同期比5.3%減)、セグメント利益は285,785千円(前年同期比11.9%減)となりました。

切削工具部門では、量産部品加工について国内企業の機械稼働率が若干低下したと想定されますが、工程短縮・効率化のための特殊工具需要は底堅く、また多品種小ロット、単品加工を行っている企業では市販刃具再研磨需要もあり、当セグメントの受注は堅調に推移しました。この結果、当セグメントの第2四半期累計期間の売上高は260,382千円(前年同期比6.7%増)、セグメント利益は49,914千円(前年同期比6.5%増)となりました。

自動旋盤用カム部門では、国内外のカム式自動旋盤を使用する顧客から受注をしていますが、大量生産品の加工が鈍化したことにより売上高は減少しました。この結果、当セグメントの第2四半期累計期間の売上高は19,871千円(前年同期比26.4%減)、セグメント利益は6,648千円(前年同期比39.7%減)となりました。

これらの結果、当第2四半期累計期間の売上高は893,034千円(前年同期比2.7%減)、営業利益は198,865千円(前年同期比15.8%減)、経常利益は212,890千円(前年同期比16.9%減)、四半期純利益129,312千円(前年同期比9.2%減)となりました。

セグメント別の売上は、以下のとおりであります。(％表示は対前年同期比)

事業部門別	期別		第22期 第2四半期		第23期 第2四半期		第22期	
			(自平成23年7月1日 至平成23年12月31日)		(自平成24年7月1日 至平成24年12月31日)		(自平成23年7月1日 至平成24年6月30日)	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
コレットチャック部門	647	(100.4)	612	(94.7)	1,307	(100.8)		
切削工具部門	244	(115.8)	260	(106.7)	512	(114.1)		
自動旋盤用カム部門	27	(87.8)	19	(73.6)	55	(91.3)		
合計	918	(103.6)	893	(97.3)	1,876	(103.8)		

(2) 財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は、4,314,342千円(前事業年度末は4,104,685千円)となり209,657千円の増加となりました。これは、受取手形及び売掛金が48,226千円減少しましたが、現金及び預金が259,762千円増加したこと等によるものであります。また、当第2四半期会計期間末における固定資産の残高は、3,253,747千円(前事業年度末は3,255,633千円)となり1,886千円の減少となりました。これは、投資有価証券が126,041千円増加しましたが、建物及び構築物が23,636千円、機械装置及び運搬具が73,313千円、繰延税金資産が29,538千円減少したこと等によるものであります。

この結果、当第2四半期会計期間末における総資産は、7,568,089千円(前事業年度末は7,360,318千円)となりました。

(負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は、229,962千円(前事業年度末は141,291千円)となり88,671千円の増加となりました。これは、役員賞与引当金が5,147千円、買掛金が3,898千円減少しましたが、未払法人税等が92,257千円増加したこと等によるものであります。また、当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は356,484千円(前事業年度末は340,816千円)となり15,668千円の増加となりました。これは、退職給付引当金が10,918千円、役員退職慰労引当金が4,750千円増加したことによるものであります。この結果、当第2四半期会計期間末における負債合計は、586,447千円(前事業年度末は482,107千円)となりました。

(純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は、6,981,642千円(前事業年度末は6,878,210千円)となり103,432千円の増加となりました。これは、その他有価証券評価差額金が79,316千円、利益剰余金が24,312千円増加したこと等によるものであります。

(2) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期累計期間末における現金及び現金同等物は、前事業年度と比べ919,087千円減少し、396,817千円となりました。なお、当第2四半期累計期間末におけるキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは433,083千円の増加(前年同四半期は223,967千円)となりました。これは、税引前四半期純利益が212,767千円、減価償却費が138,261千円、売上債権の減少額が48,226千円、未払金の増加額が26,961千円あったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは1,247,228千円の減少(前年同四半期は133,568千円の減少)となりました。これは、定期預金の増加額が1,178,849千円、有形固定資産の取得による支出が63,635千円、有価証券の取得による支出が4,017千円あったこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは104,942千円の減少(前年同四半期は97,557千円の減少)となりました。これは主に、配当金の支払額によるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

第2四半期累計期間及び通期の見通しにつきましては、当第2四半期累計期間の状況を踏まえて、前回発表予想を下回る見込みとなったため、平成25年2月1日に「平成25年6月期業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」を公表いたしました。詳細につきましては、「平成25年6月期業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

### (1) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年7月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

なお、これによる損益への影響は軽微であります。

3. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年6月30日)	当第2四半期会計期間 (平成24年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,453,719	3,713,481
受取手形及び売掛金	427,358	379,132
製品	5,515	4,495
原材料	31,100	32,460
仕掛品	168,522	164,623
繰延税金資産	15,721	23,286
その他	8,347	1,166
貸倒引当金	△5,601	△4,304
流動資産合計	4,104,685	4,314,342
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	676,829	653,193
機械装置及び運搬具(純額)	858,854	785,541
土地	319,337	319,337
その他(純額)	9,547	7,871
有形固定資産合計	1,864,569	1,765,943
無形固定資産		
投資その他の資産	4,152	4,663
投資有価証券	1,278,131	1,404,172
繰延税金資産	107,742	78,204
その他	4,431	3,817
貸倒引当金	△3,392	△3,053
投資その他の資産合計	1,386,912	1,483,140
固定資産合計	3,255,633	3,253,747
資産合計	7,360,318	7,568,089
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	15,940	12,042
未払金	69,855	72,711
未払法人税等	14,657	106,914
役員賞与引当金	8,810	3,663
その他	32,027	34,631
流動負債合計	141,291	229,962
固定負債		
退職給付引当金	296,696	307,614
役員退職慰労引当金	44,120	48,870
固定負債合計	340,816	356,484
負債合計	482,107	586,447

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年6月30日)	当第2四半期会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	292,500	292,500
資本剰余金	337,400	337,400
利益剰余金	6,378,582	6,402,894
自己株式	—	△196
株主資本合計	7,008,482	7,032,598
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△130,271	△50,955
評価・換算差額等合計	△130,271	△50,955
純資産合計	6,878,210	6,981,642
負債純資産合計	7,360,318	7,568,089

(2) 四半期損益計算書  
第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	918,161	893,034
売上原価	540,787	556,018
売上総利益	377,373	337,015
販売費及び一般管理費	141,264	138,150
営業利益	236,109	198,865
営業外収益		
受取利息	615	509
有価証券利息	371	251
受取配当金	7,988	8,678
貸倒引当金戻入額	—	1,236
補助金収入	10,000	—
その他	1,085	3,348
営業外収益合計	20,062	14,024
経常利益	256,171	212,890
特別損失		
有形固定資産売却損	—	66
有形固定資産除却損	22	56
特別損失合計	22	123
税引前四半期純利益	256,148	212,767
法人税、住民税及び事業税	2,600	104,190
法人税等調整額	111,076	△20,735
法人税等合計	113,676	83,454
四半期純利益	142,472	129,312

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成23年7月1日 至 平成23年12月31日)	当第2四半期累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成24年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純利益	256,148	212,767
減価償却費	132,904	138,261
長期前払費用償却額	30	15
有形固定資産売却損益(△は益)	—	66
有形固定資産除却損	22	56
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△119	△1,636
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△4,460	△5,147
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△7,029	10,918
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	3,520	4,750
受取利息及び受取配当金	△8,976	△9,439
売上債権の増減額(△は増加)	18,539	48,226
たな卸資産の増減額(△は増加)	△11,896	3,560
仕入債務の増減額(△は減少)	△1,447	△3,898
未払金の増減額(△は減少)	△22,750	26,961
その他	△1,286	10,809
小計	353,198	436,270
利息及び配当金の受取額	9,290	9,325
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△138,521	△12,512
営業活動によるキャッシュ・フロー	223,967	433,083
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額(△は増加)	299,569	△1,178,849
有価証券の取得による支出	△2,779	△4,017
有形固定資産の取得による支出	△427,441	△63,635
無形固定資産の取得による支出	△3,307	△995
貸付金の回収による収入	390	270
投資活動によるキャッシュ・フロー	△133,568	△1,247,228
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
自己株式の取得による支出	—	△196
配当金の支払額	△97,557	△104,746
財務活動によるキャッシュ・フロー	△97,557	△104,942
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△7,158	△919,087
現金及び現金同等物の期首残高	1,160,521	1,315,904
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,153,362	396,817

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

1. 前第2四半期累計期間(自 平成23年7月1日 至 平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	647,139	244,016	27,005	918,161	—	918,161
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	647,139	244,016	27,005	918,161	—	918,161
セグメント利益	324,368	46,862	11,018	382,248	△146,139	236,109

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△4,875千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 当第2四半期累計期間(自 平成24年7月1日 至 平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	612,779	260,382	19,871	893,034	—	893,034
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	612,779	260,382	19,871	893,034	—	893,034
セグメント利益	285,785	49,914	6,648	342,348	△143,482	198,865

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△5,332千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。